

令和5年度 学力・学習状況充実プラン

1	令和5年度学力・学習状況充実プランについて	1
2	授業改善に向けて	
	(1) 小学校の正答数分布の傾向と問題別調査結果	2
	(2) 中学校の正答数分布の傾向と問題別調査結果	5
	(3) 質問紙調査の傾向	9
	(4) 授業改善の方向性	13
3	先生方へ	14
	各教科の課題から見えてきた 「児童生徒に、つけたい・のばしたい力と授業改善のポイント」 「授業アドバイスシート」	
	(1) 小学校国語	15
	(2) 小学校算数	18
	(3) 中学校国語	22
	(4) 中学校数学	25
	(5) 中学校英語	29



愛知県教育委員会義務教育課
愛知県総合教育センター

令和5年12月

1 令和5年度学力・学習状況充実プランについて

令和5年度全国学力・学習状況調査が、4月18日（火）に各校にて小学校6年生、中学校3年生を対象に行われました。全国の結果や本県の経年変化等を分析し、見えてきた本県の課題等を基に、「令和5年度学力・学習状況充実プラン」を作成いたしました。

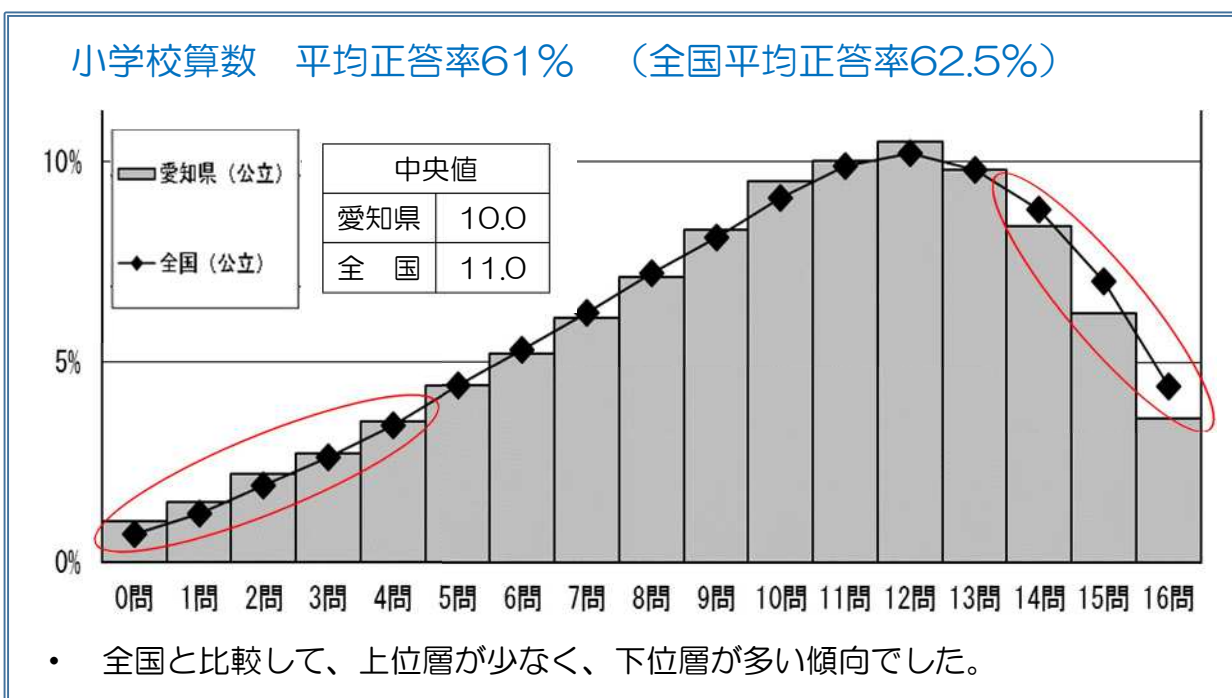
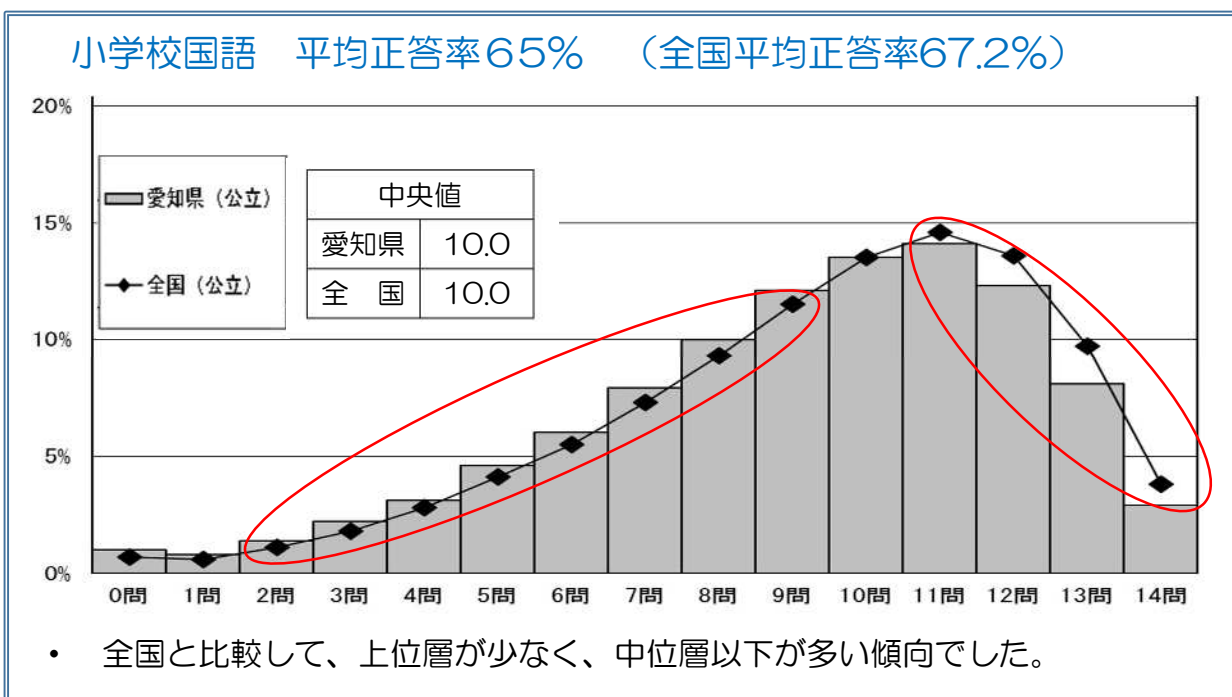
今年度の調査教科は、国語、算数・数学、英語（中学校にて平成31年以来4年ぶり2回目）について実施されました。経年変化等の分析からは、改善の傾向が見られたものもある一方、依然として課題が認められるものがあります。

そこで、本県の児童生徒の現状から見えてきた課題に対する対策を示し、重点的に取り組みたい授業例を、「授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程教育センター）」を参考にまとめてみました。

また本充実プランは、本県の児童生徒の学力・学習状況の向上・改善のために、調査対象の学年のみならず、すべての児童生徒を対象とした学習指導改善、授業改善に役立てていただけるよう、見やすく、取り組みやすいプランを作成しましたので、ぜひ、御活用ください。

2 授業改善に向けて

(1) 小学校の正答数分布の傾向



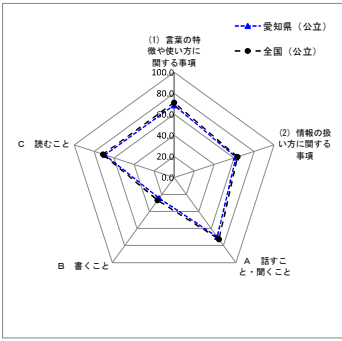
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		愛知県（公立）	全国（公立）	対象児童数		愛知県（公立）	全国（公立）
		970	18,618			63,999	964,177

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			愛知県（公立）	全国（公立）
全体			14	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	68.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	61.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	69.9
		B 書くこと	1	24.3
		C 読むこと	3	69.2
	評価の観点	知識・技能	7	66.8
思考・判断・表現		7	63.1	
主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式	9	71.8	
	短答式	2	59.3	
	記述式	3	48.2	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		愛知県の児童の傾向	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	愛知県（公立）	全国（公立）	愛知県（公立）		全国（公立）
			言葉の特徴や使い方にに関する事項	情報の扱い方にに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	愛知県（公立）	全国（公立）	愛知県（公立）		全国（公立）
1-1	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5-6ア												63.3	64.7	2.6	1.8	
1-2	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる						5-6エ							24.3	26.7	8.5	7.1	複数の資料から必要な情報を使ってまとめることが求められる問題。正答率が非常に低く、無回答率も高めである。
1-3ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（いがい）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6エ												47.9	52.8	6.2	4.8	同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。
1-3ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（よかみ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6エ												70.6	72.6	8.4	6.7	それほど難しい熟語ではないので7割が正解している一方で、無回答率が高めである。
1-3イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものと適切なものを選択する（くらべて）	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5-6ウ												91.8	93.1	1.4	1.0	選択問題ではあるが、90%以上の正答率となっている。
1-4	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5-6カ												77.7	79.8	2.7	2.0	
2-1	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる						3-4ウ							89.0	90.0	1.8	1.2	
2-2	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5-6ウ							65.3	67.4	2.0	1.4	
2-3	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものと適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5-6イ												60.6	62.0	2.2	1.6	
2-4	資料を読み、運動と食事の両方について分かったこととともに、自分ができるようなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5-6オ							53.2	56.2	9.7	8.5	正答率が低く、無回答率も高い。読み取ったことを基に自分の考えをまとめて書くことに課題がある。
3-1(1)	【インタビューの様子】の傍線部ア（～ということだと思いますが、合っていますか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる						3-4エ							71.6	73.6	4.7	3.7	
3-1(2)	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる						3-4エ							70.9	74.0	5.2	4.1	
3-2	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5-6エ							67.2	70.2	16.2	14.3	無回答率がとても高い。複数の条件下で自分の考えをまとめて書くことに課題がある。
3-3	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5-6キ												55.8	57.6	12.0	9.5	選択問題でありながら無回答が多く、正答率も低めである。敬語の知識が身に付いていないと考えられる。

以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

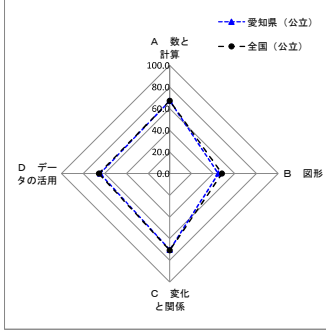
集計結果

対象学校数	愛知県(公立)	全国(公立)	対象児童数	愛知県(公立)	全国(公立)
	970	18,615		64,006	964,350

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			愛知県(公立)	全国(公立)
全体				
		16	61	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	67.2	67.3
	B 図形	4	44.8	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	70.4	70.9
評価の観点	D データの活用	3	64.4	65.5
	知識・技能	9	65.7	67.2
	思考・判断・表現	7	55.7	56.5
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0		
	選択式	5	55.1	57.7
	短答式	7	74.1	74.7
	記述式	4	46.9	47.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

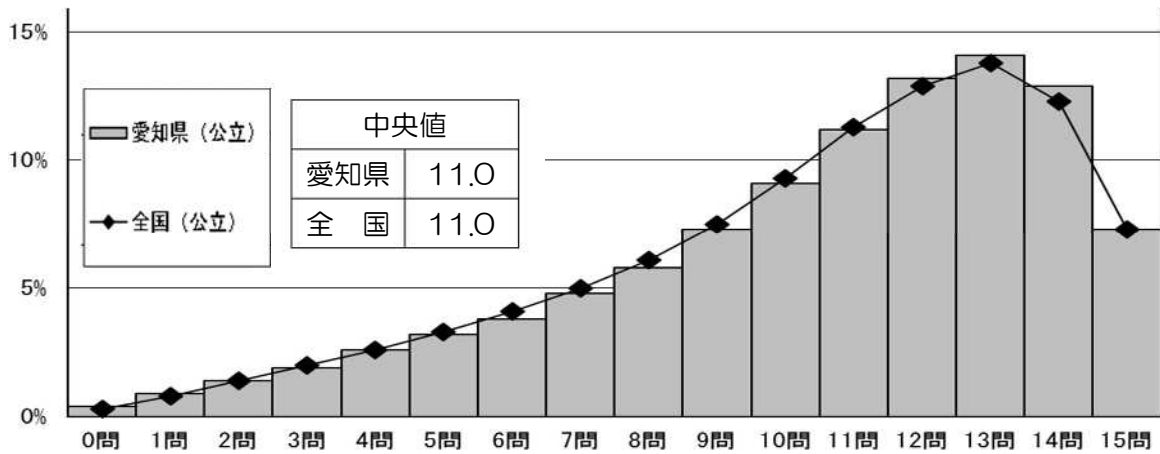


問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		愛知県の児童の傾向
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	愛知県(公立)	全国(公立)	愛知県(公立)	全国(公立)	
1(1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				5(1) 7(7)	○					○	93.8	93.5	1.0	0.8		
1(2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) 7(7)	○					○	88.0	88.5	1.2	1.0		
1(3)	椅子4脚の重さが7kgであることに基に、4脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさを求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) 7(7)	○					○	56.2	55.5	4.1	3.4		
1(4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) 7(7)				○					○	80.4	80.8	1.6	1.2		
2(1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(4)			○					○	54.5	59.8	1.1	0.7		
2(2)	テープを折り折り切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) 4(1) 7(7)			○					○	84.9	87.2	4.2	2.9	(2)のように図形を見て名称を答えることは得意な傾向であるが、(1)(3)のように図形の特徴やそれを活用した問題についての理解が不十分であると考える。	
2(3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) 7(7)			○					○	22.5	24.9	4.6	3.7		
2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) 7(7)			○					○	17.2	20.8	4.9	4.0	三角形の底辺と高さの位置関係の理解が不十分であると考える。	
3(1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる		4(6) 7(7)			○					○	69.4	70.3	1.8	1.4		
3(2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる		3(5) 7(4) 4(4) 7(2) 7(7)			○					○	59.0	56.7	4.7	4.0	文章の状況からの立式や、小数を含む計算を正しく用いて表現、判断することが全国より高い傾向を示す。	
3(3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる		4(6) 7(7)			○					○	73.8	72.4	3.1	2.5		
3(4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる		3(4) 7(7)			○					○	45.1	47.6	4.7	3.9	筆算の段階と式を結びつけて、計算の意味を理解することが不十分である。	
4(1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる		5(3) 7(4)			○					○	43.5	46.0	2.8	2.4	百分率と歩合、それぞれの割合の意味についての理解が不十分であると考える。	
4(2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる		4(2) 7(4)			○					○	75.4	75.7	4.8	4.3		
4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる		3(1) 7(7)			○					○	55.0	56.2	14.6	13.8	グラフを分析する経験が少なく、グラフの見方や分析の視点についての理解が不十分であると考える。	
4(4)	二次元の表から、読み取ったことと根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる		4(1) 7(7)			○					○	62.8	64.6	5.2	4.9		

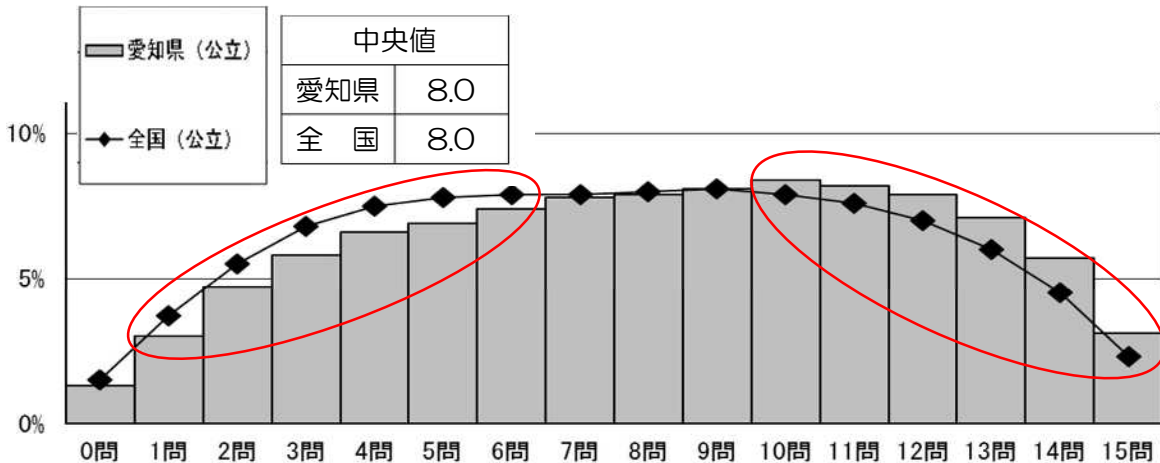
(2) 中学校の正答数分布の傾向

中学校国語 平均正答率70% (全国平均正答率69.8%)



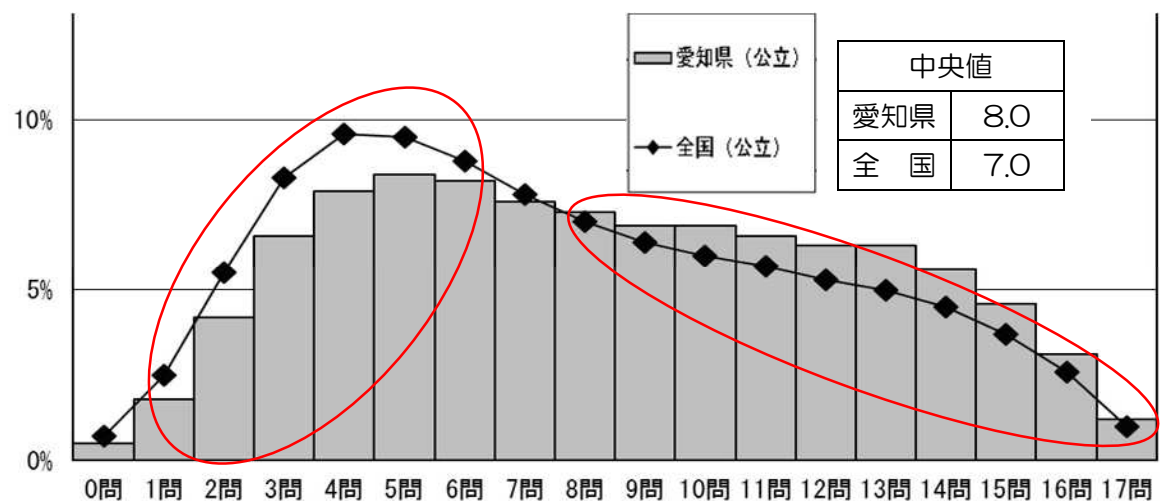
- ・ 全国と比較して、ほぼ同等の傾向でした。

中学校数学 平均正答率54% (全国平均正答率51.0%)



- ・ 全国と比較して、上位層が多く、中位層以下が少ない傾向でした。

中学校英語 平均正答率50% (全国平均正答率45.6%)



- ・ 全国と比較して、上位層が多く、中位層以下が少ない傾向でした。

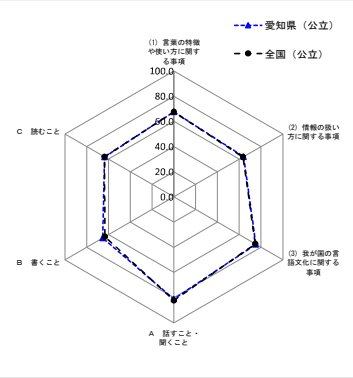
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		愛知県(公立)	全国(公立)	対象生徒数		愛知県(公立)	全国(公立)
		424	9,336			60,425	892,738

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			愛知県(公立)	全国(公立)	
全体		15	70	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	2	67.6	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	64.0	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	75.2	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	81.1	82.2
		B 書くこと	2	65.3	63.2
		C 読むこと	4	63.5	63.7
評価の観点	知識・技能	7	69.8	69.4	
	思考・判断・表現	9	69.8	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	73.3	73.1	
	短答式	4	67.1	65.6	
	記述式	4	67.5	68.0	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

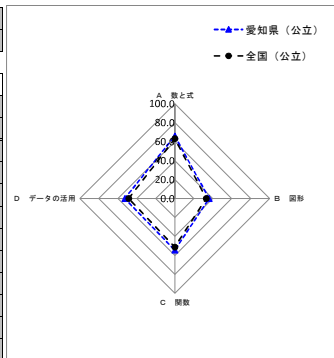
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		愛知県の生徒の傾向			
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	愛知県(公立)		全国(公立)	愛知県(公立)	全国(公立)
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア			○	○	86.7	87.5	0.1	0.1	
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア					○	○	64.4	65.1	0.1	0.2	
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ			○	○	76.3	76.6	0.2	0.2	
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ			○	○	80.3	82.5	12.2	10.8	全国と比べて正答率が低く、無回答率が高い問題。インタビューで聞き取ったことを基に、自分の考えをまとめることに課題がある。
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○	○	90.8	91.1	0.2	0.2	
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる				2エ			○	○	64.3	63.0	0.4	0.4	
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる				1ア			○	○	74.0	74.2	0.3	0.3	
2四	自分がこれかのように本を読んできたかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ		2オ			○	○	65.4	67.5	3.9	3.9	正答率が全国より低い。複数の文章を読み、知識や経験と結び付けながら自分の考えを広げること課題がある。
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○	○	56.6	54.3	0.6	0.6	
3二	漢字を書く(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○	○	44.5	43.9	11.7	10.7	小6の配当漢字の問題。正答率が最も低い。全国と比べると正答率はやや高いが、無回答率は高い。
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる				2ア			○	○	63.5	61.8	1.8	2.1	
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○	○	74.1	72.1	9.5	10.2	正答率が全国より高い問題。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる				1ア			○	○	83.3	82.5	3.5	3.6	
4二	原文中の語句に対応する言葉現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる				2イ			○	○	76.9	74.1	4.6	4.8	正答率が全国と比べて最も高い。古語の「いと」については、現代語と対応させて内容を捉えることができる。
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				1エ			○	○	50.5	50.0	20.8	20.7	無回答率が高く、正答率も低い問題。「竹取物語」の一部を取り上げるという条件を満たして現代語の工夫について書くことが求められている。

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	愛知県（公立） 424	全国（公立） 9,337	対象生徒数	愛知県（公立） 60,456	全国（公立） 893,114
-------	----------------	-----------------	-------	-------------------	-------------------

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

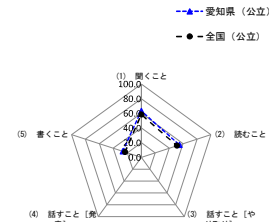
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)		愛知県の生徒の傾向
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用			愛知県 (公立)	全国 (公立)	愛知県 (公立)	全国 (公立)	
1	-5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	$\frac{1}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						51.9	46.1	0.1	0.1	全国よりも高い正答率だが、数学の用語の意味の理解を問う問題は、正答率が低い傾向がある。
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						82.9	80.5	3.4	4.0	
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる		$\frac{1}{7}$ ($\frac{1}{7}$)					34.0	30.4	0.6	0.8	空間図形の点や面の位置関係をイメージできていない。
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			$\frac{1}{7}$ ($\frac{1}{7}$)				45.4	42.8	0.4	0.5	全国よりも高い正答率だが、数学の用語の意味の理解を問う問題は、正答率が低い傾向がある。
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる			$\frac{1}{7}$ ($\frac{1}{7}$)				49.6	46.1	10.4	11.0	
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけた数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	$\frac{1}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						90.3	88.9	2.0	2.4	
6(2)	はじめの数にかけた数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成させることができるかどうかをみる	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						61.5	58.8	9.5	10.6	
6(3)	はじめの数にかけた数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						42.9	40.9	23.4	24.7	
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる			$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)				72.6	65.7	4.6	5.6	数学の用語の意味の理解を問う問題だが、比較的新しく学んだものはよくできている。
7(2)	「2006年～2020年の休業日は、1991年～2005年の休業日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に著目して説明することができるかどうかをみる	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						35.8	33.6	20.7	22.8	
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる		$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)					60.4	57.5	7.7	8.6	
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる		$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)					65.6	61.7	0.8	1.1	
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区スタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる		$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)					46.2	42.8	12.6	13.2	
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であるとき、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						32.7	32.1	26.4	24.7	この設問のみ、無解答率が全国よりも高い。簡単な証明問題だが、条件が変わっても成立する根拠が見いだせなかったためか、正答率が低い。
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	$\frac{2}{7}$ ($\frac{1}{7}$)						41.9	37.0	11.8	14.2	

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	愛知県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	愛知県（公立）	全国（公立）
	424	9,335		60,476	893,528
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			愛知県（公立）	全国（公立）	
全体					
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	63.4	58.4	
	(2) 読むこと	6	54.8	51.2	
	(3) 話すこと〔やり取り〕	0			
	(4) 話すこと〔発表〕	0			
	(5) 書くこと	5	26.7	23.4	
評価の観点	知識・技能	9	56.5	51.5	
	思考・判断・表現	8	41.7	38.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	59.1	54.8	
	短答式	3	34.9	30.1	
	記述式	2	14.3	13.5	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		正答率(%)		無解答率(%)		愛知県の生徒の傾向
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと〔やり取り〕	(4) 話すこと〔発表〕	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	愛知県（公立）	全国（公立）	愛知県（公立）	
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○		○			84.4	79.0	0.1	0.1	
1 (2)	選案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○		○			69.7	64.4	0.2	0.2	
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○		○			57.7	49.8	0.2	0.2	正答率が全国平均より大きく上回っている。数量を表す表現や比較級を用いた情報を正確に理解することができている。
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○		○			64.8	61.1	0.2	0.2	
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○		○			44.7	41.2	0.3	0.2	無解答率が全国平均を上回っている問題は、【3, 4, 8(2), 10】の4つ。思考・判断を働かせたり、表現したりすることに課題がある。
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○		○			59.2	54.8	0.5	0.4	
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○		○			59.9	56.0	0.3	0.3	
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	○					○		○			67.9	64.5	0.3	0.3	
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○		○			37.6	35.9	0.2	0.3	
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○		○			64.8	59.8	0.3	0.3	
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○		○			35.8	34.7	0.6	0.7	正答率が低い傾向の問題である。日常的な話題に関する説明や物語などを読んで概要を把握することに課題がある。
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○		○			62.6	56.1	0.6	0.8	
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	ウ					○		○			20.6	19.5	29.4	29.3	正答率がかなり低く、無回答率が高い。社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	ア					○		○			45.7	40.4	5.6	6.6	
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	ア					○		○			23.5	20.9	9.7	10.9	
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	ア					○		○			35.4	29.0	22.7	24.5	
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとものある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとものある文章を書くことができるかどうかをみる	イ					○		○			8.1	7.4	22.6	21.4	正答率が最も低い。日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて出来事などを説明するまとものある文章を書くことに課題がある。

(3) 質問紙調査の傾向

児童生徒質問A（小32 中36）「昨年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	24.5	40.4	64.9	-2.0	1.2	令和5年度	22.4	42.1	64.5	-1.4	2.4
令和4年度	27.4	39.5	66.9	0.7	1.5	令和4年度	23.2	42.7	65.9	3.0	2.6
令和3年度	25.1	41.1	66.2		2.7	令和3年度	20.7	42.2	62.9		0.9

小学校平均正答率						中学校平均正答率					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	発表する機会がなかった	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	発表する機会がなかった
国語	71.9	66.2	60.6	56.9	49.5	国語	78.4	72.8	64.6	58.6	54.6
算数	69.4	62.9	56.4	51.5	44.0	数学	64.5	57.1	47.4	40.8	38.7
						英語	59.9	51.7	42.8	37.0	37.6

学校質問A（27）「調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	10.5	66.2	76.7	4.7	-2.3	令和5年度	9.4	72.4	81.8	4.0	0.2
令和4年度	9.1	62.9	72.0	9.2	-3.1	令和4年度	11.8	66.0	77.8	4.4	-2.9
令和3年度	8.8	54.0	62.8		-5.5	令和3年度	10.5	62.9	73.4		-2.2

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語	66.3	64.6	62.1	59.1
算数	64.1	61.0	58.6	56.1

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語	73.7	70.1	64.9	66.7
数学	57.9	54.2	47.8	50.6
英語	53.6	49.3	43.5	44.1

肯定的な回答をした児童生徒の割合は、本年度は昨年度よりやや減少しましたが、全国より高い傾向です。また、肯定的な回答をした児童生徒の各教科の平均正答率は、かなり高くなっています。一方、学校質問における同様の質問への回答は、肯定的な割合が児童生徒の回答より高くなっています。

学校（教師）としては発表の内容や方法等を工夫して取り組む場を設定していても、児童生徒はまだまだ工夫の余地があると感じているようです。児童生徒が工夫して表現したことを先生方が**価値付け**、児童生徒がその**よさを実感**できるような教師による支援があると、達成感が高まり、次への学習意欲が高まると考えられます。

児童生徒質問B（小33 中37）「昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	27.8	49.2	77.0	1.3	-1.8	令和5年度	27.4	48.7	76.1	-1.3	-3.1
令和4年度	28.0	47.7	75.7	-1.5	-1.6	令和4年度	29.0	48.4	77.4	-1.2	-1.8
令和3年度	29.6	47.6	77.2		-1.0	令和3年度	30.9	47.7	78.6		-2.4

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	71.4	65.1	58.4	49.9
算数	69.3	61.3	53.4	44.5

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	78.0	71.2	61.1	49.7
数学	65.8	54.7	42.2	32.0
英語	60.2	49.5	38.9	31.6

学校質問B（26）「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	15.5	68.6	84.1	3.1	-4.8	令和5年度	13.7	71.0	84.7	2.4	-3.3
令和4年度	12.6	68.4	81.0	1.8	-6.2	令和4年度	10.9	71.4	82.3	0.5	-5.6
令和3年度	12.8	66.4	79.2		-6.1	令和3年度	13.6	68.2	81.8		-4.2

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	66.6	64.4	61.3	57.5
算数	63.6	60.9	57.3	54.0

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	72.9	69.9	64.8	67.6
数学	57.8	53.7	48.1	54.7
英語	52.9	49.0	43.2	49.5

肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国より低い傾向です。学校質問での回答では、全国値よりも低くなっていますが、年々増加傾向にあります。ただし、児童生徒の認識とのずれがあるようなので、児童生徒がより主体的に考え、課題解決に向けて自ら取り組めるような授業づくりが求められます。

児童生徒質問、学校質問のどちらも、肯定的に回答した児童生徒・学校の各教科の平均正答率は高くなっています。児童生徒が**主体的に解決したいと思える課題の設定**が、学力向上につながるカギとなりそうです。

先生が教える授業から、児童生徒が**自ら学び取る授業**へと転換していきましょう。

児童生徒質問C（小34 中38）「昨年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

小学校（児童回答）					中学校（生徒回答）						
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	25.2	46.2	71.4	1.7	-3.0	令和5年度	18.9	44.3	63.2	0.4	-5.9
令和4年度	25.2	44.5	69.7		-2.5	令和4年度	19.1	43.7	62.8		-4.6

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	70.9	65.5	60.3	53.3
算数	68.2	61.9	56.0	48.5

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	78.2	72.4	65.1	56.8
数学	65.3	56.7	47.4	39.6
英語	60.4	51.5	43.0	36.7

学校質問C（35）「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」

小学校（学校回答）					中学校（学校回答）						
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	11.3	66.1	77.4	2.8	-8.2	令和5年度	8.5	60.4	68.9	0.3	-9.7
令和4年度	10.0	64.6	74.6	0.3	-8.8	令和4年度	10.2	58.4	68.6	5.2	-8.0
令和3年度	11.8	62.5	74.3		-7.1	令和3年度	8.4	55.0	63.4		-9.2

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	65.0	64.5	62.9	65.6
算数	62.4	61.1	59.1	61.1

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
国語	72.1	69.3	69.3	67.6
数学	56.5	53.5	52.4	52.3
英語	51.6	48.9	47.3	47.1

児童生徒質問・学校質問のどちらも、肯定的な回答の割合は、前年度と比べて増加していますが、全国と比較するとかなり低い傾向です。

肯定的に回答した児童生徒の各教科の正答率は、かなり高くなっています。

カリキュラム・マネジメントにより、**教科横断的な取組**を取り入れるなど、児童生徒の学びが多様な場面で生かされ、さまざまな課題を解決することを通して自分の考えをまとめていく活動が、学力の向上につながっていくと考えられます。

児童生徒質問D（小37 中41）「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和5年度	28.3	46.4	74.7	-1.5	-2.7	令和5年度	20.4	45.1	65.5	-7.0	-3.7
令和4年度	30.3	45.9	76.2	-1.3	-2.0	令和4年度	23.7	48.8	72.5	0.0	-2.2
令和3年度	31.9	45.6	77.5		-0.8	令和3年度	24.7	47.8	72.5		-2.1

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語	70.9	65.1	59.5	53.1
算数	68.7	61.3	54.7	47.7

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
国語	78.3	72.4	64.5	54.8
数学	66.9	56.8	45.6	35.4
英語	61.6	51.5	41.3	34.2

前年度と比較すると、肯定的な回答の割合が減少傾向で、特に中学生の減少率が顕著です。また、全国と比較しても、肯定的に回答した児童生徒の割合が低い傾向にあります。肯定的に回答した児童生徒の各教科の正答率は、かなり高くなっています。

授業の中で学びを振り返ることで、分かった点や、よく分からなかった点を**メタ認知**させ、分からなさを大切にして、次の学びへつなげられるような授業展開が、学びのサイクルとして定着すると、学力向上にも効果があると考えられます。

(4) 授業改善の方向性

学びの主体は児童生徒です。学習指導要領では、児童生徒の「資質・能力」を総合的にバランスよく伸ばしていくことを目指しています。そのためには、私たち教師が日々の授業改善に取り組んでいくことが重要です。

1 できるだけ楽しみながら基礎・基本の定着を図る工夫をしよう

学習活動が児童生徒にとってより楽しく、切実であるほど、また、児童生徒が学ぶ意味を実感し、実現される内容が深まったり、広がったりするほど、基礎・基本の定着度が増していきます。児童生徒にとって意味のある活動、教師から見ても価値のある内容を実現していくような学習サイクルを計画的に組み立てましょう。

- 児童生徒自身が「**解決したい**」「**追究したい**」と思えるような課題を提示し、その課題の解決に向けて、必要な知識や技能を児童生徒が自ら求めたくなるような学習活動を設定しよう。
- 各教科を学ぶおもしろさを味わい、**教科の本質**に迫る学習活動を通して、基礎・基本を活用しながら、自らの学びが深まっていくことを実感できる授業デザインを工夫しよう。
- 「振り返り」を通して、児童生徒が**自分の学びを俯瞰的に捉えられる**ようにし、足りないところを家庭学習等で主体的に補える学習サイクルに導こう。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組もう

児童生徒の実態把握と教材研究を通して、授業や単元において、学ばせたいことを明確にした上で、先生方御自身が授業づくりを楽しみ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行いましょ。

- 児童生徒が課題意識（ワクワク感）をもちながら、**学ぶ意味や価値を見だし**、学習の見通しを立て、自己調整しながら探究したくなる学習課題を設定しよう。
- 児童生徒が各教科の「**見方・考え方**」をどのような場面で、どのように働かせるかを意識しながら、児童生徒の目線で授業展開を考え、組み立てを工夫しよう。
- ペアやグループで、児童生徒が互いの考えを**聴き合い**ながら自身の考えを深めていけるような、少人数での学び合いの場を積極的に取り入れよう。
- カリキュラム・マネジメントを通して、各教科等で育んだ「**見方・考え方**」が**発揮できる場面**をつくり、教科横断的な取組を充実させよう。

3 一人一台端末を積極的かつ効果的に活用し、学習活動の充実を図ろう

昨年度の本県の結果と比較すると、日常のさまざまなところでICTを活用する場面が増えてきました。特に授業では、ねらいを明確にし、課題を適切に設定することや児童生徒の実態を的確に把握することで、効果的にICTを活用し、目指す力の育成のための時間を確保することができます。ICTを活用することを目的とするのではなく、児童生徒がより「主体的・対話的で深い学び」へ向かうための一つのツールとして、効果的に活用していくことが大切です。

- ICTを必要に応じて活用しながら、**学びの記録を蓄積**したり、目的に合わせて**他者と情報共有**したりしながら、児童生徒の学習改善や教師の授業改善に役立てよう。
- ICT活用で児童生徒の**気付きや考えを可視化**し、内言の外言化を促そう。
- ICT活用で情報処理や共有のための**時間を短縮**し、授業の「ねらい」に迫るために試行錯誤するような時間を生み出そう。

3 先生方へ

令和5年度全国学力・学習状況調査の愛知県の結果を分析して見えてきた各教科の課題を踏まえ、重点的に取り組んでいただきたい内容について、各教科の課題から見えてきた「児童生徒に、つけたい・のばしたい力と授業改善のポイント」という観点で、授業のポイントや参考例等をまとめました。

また、児童生徒の関心・意欲を引き出し、対話を通して学ぶ意味や価値を実感させる場面や、各教科の特質に応じて児童生徒が「見方・考え方」を発揮する場面、効果的なICT活用場面を「授業アドバイスシート」として例示しています。本年度の問題、該当学年の課題として捉えるのではなく、今後の授業の中で、どの学年においても「授業アドバイスシート」の事例を参考に、意識的に取り組んでいただくことで、各教科における児童生徒の資質・能力を向上させることができると考えます。

学びの主体は児童生徒です。教師が教える授業から、児童生徒が学びとる授業へ転換し、全ての子供たちが生涯にわたって学び続けることができるよう、先生方には日々の授業改善に取り組んでいただきたいと思います。また、小学校・中学校の校種を問わず、それぞれの課題を共有しながら、目の前の児童生徒のための授業改善の一助としていただけることを願っています。

国立教育政策研究所のウェブサイトにも多くの事例が紹介されています。各学年の授業づくりにお役立ていただければ幸いです。

※ 国立教育政策研究所のウェブサイトへはこちらのアドレスから

<https://www.nier.go.jp/jugyourei/r05/index.htm>



各教科の課題から見えてきた「児童生徒に、つけたい・のばしたい力と授業改善のポイント」

(1) 小学校国語

1 複数の本や資料を読んで分かったことを整理したり、分かったことの中から既有的知識や体験などに結び付くものを考えたりしながら自分の考えをまとめるような授業を行いましょう。



◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・文章を読んで、その内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有的知識などと結び付けて自分の考えを形成することができる。

☆ここがポイント！

- ・自分の目的に合った情報の整理の仕方を選ぶことができるようにしよう。
- ・文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることができるようにしよう。

授業アイデア例

国立教育政策研究所
報告書 P. 48～53

＜取組例＞

- ・健康に過ごすために、複数の本や資料を読み、自分ができそうなことをまとめよう

2 話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめるような授業を行いましょう。

◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。

☆ここがポイント！

- ・自分が伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことができるようにしよう。
- ・事前に自分が知りたいことや疑問に思っていることなどを整理したり、答えを予想したりしておくようにしよう。

授業アドバイスシート

小学校国語参照

＜取組例＞

- ・地域で働く人にインタビューをし、その人物や仕事について紹介し合おう

3 相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解することができるような授業を行いましょう。



◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・日常よく使われる敬語を理解することができる。

☆ここがポイント！

- ・日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにしよう。
- ・敬語には特別な言葉を使った言い方があることや、「お(ご)ーになる」や「お(ご)ーする」のような言い方があることなどを理解できるようにしよう。

学習活動の例

国立教育政策研究所
報告書 P. 63、64

＜取組例＞

- ・相手や場面に応じた敬語の使い方を考える

授業アドバイスシート

【小学校国語】

地域で働く人にインタビューをし、その人物や仕事について紹介し合おう。

<学習の流れ>

第一次：①紹介したい職業及び人物を考える

第二次：②インタビューの際に聞き出したい内容について話し合い、整理する **基礎・基本**

③インタビューをする **ICT活用**

④インタビューで得た情報を整理し、自分の考えをまとめる **ICT活用**

第三次：⑤⑥集めた情報をまとめて紹介し合い、学習を振り返る **主・対・深**

【第一次①】 紹介したい職業及び人物を考える

- ・地域で働いている人々について、興味をもった仕事や人物の魅力を調べて紹介し合うという学習の見通しをもたせる。

【第二次②】 インタビューの際に聞き出したい内容について話し合い、整理する **基礎・基本**

- ・インタビューのモデルを示すなどし、質問の仕方について確認をする。
- ・質問に対する回答を予想させ、必要に応じて聞く質問を考えたり、より詳しく聞きたいことを挙げたりすることができるようにする。



インタビュー前の考え（予想）

毎朝早く起きてパンを焼くのは大変そうだけど、お客さんに「おいしい」と言ってもらえることがやりがいになっているのかな。

聞き出したい内容

仕事のやりがいは何ですか。



第二次④で自分の考えをまとめるためには、インタビュー前に、自分の考えを基に聞き出したいことを具体化しておくことが大切です。

【第二次③】 インタビューをする **ICT活用**

- ・聞き出したいことは何かを明確にもち、相手の意図を捉え、話の展開に沿って目的に応じた質問をすることができるようにする。
- ・ICレコーダーやタブレット端末などにより、インタビューの様子を記録し、自分の質問の仕方を振り返れるようにする。

【第二次④】 インタビューで得た情報を整理し、自分の考えをまとめる **ICT活用**

- ・必要な情報を得ることができたかどうか確認しながら、目的に応じた効果的な質問ができていたのかについても振り返る。
- ・聞き出したかったことを中心に、インタビュー前の自分の考えと比べながらまとめる。



「どんな思いや考えをもって、仕事をしていますか」と質問してみたら、はっきりした答えがなかったけれど、聞き方がよくなかったのかな。



そのあと、「パン作りの仕事をする上で常に大切にしていることは何ですか」と聞いて聞きたら、詳しく答えてくださったよね。単に「思いや考え」と、何を答えているのか、分かりづらかったのかもかもしれないね。



やりがいは予想と同じで、お客さんが「おいしい」と言ってくれることだったな。でも、地域にこうけんしていることも、やりがいにつながっているなんて知らなかったなあ。



インタビュー後の考え

お客さんの「おいしい」という言葉にやりがいを感じていることが分かった。また、地域のしゅんの食材を使ったパンを作ることで、地域にこうけんしているということもやりがいの一つになっていることも分かった。
新しい商品を開発するために、何十回と試作を重ねているところに職人としてのこだわりを感じた。自分が納得できるまでやり通すのはすごいと思う。



自分の考えをまとめるためには、知りたい情報を聞き出せたかどうかについても整理することが必要です。その際、相手の意図を捉え、話の展開に沿った質問の仕方ができていたかどうか振り返ることが大切です。



インタビュー前の自分の考えと、インタビューで得た情報とを比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理できるようにしましょう。

【第三次⑤⑥】集めた情報をまとめて紹介し合い、学習を振り返る **主・対・深**

- ・必要な情報を新聞やリーフレットなどにまとめて紹介し合う。
- ・本単元で身に付いた力や、今後の学習などに生かしたいことなどについて振り返りを行う。

<参考>

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた小学校授業アイデア例

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

(2) 小学校算数

1 対話的な活動や具体物の操作を通して、図形の辺や角、対角線の関係を整理しながら図形の意味や性質を理解できるような授業を行いましょう。



◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・直角三角形、正三角形、二等辺三角形の意味や性質を理解することができる。
- ・長方形、正方形、平行四辺形、ひし形、台形の意味や性質を理解することができる。
- ・多角形や正多角形の意味や性質を理解することができる。

☆ここがポイント！

- ・対話的な活動や具体物の操作を通して、図形の辺や角、対角線の関係を整理できるようにしよう。

授業アイデア例

国立教育政策研究所
報告書 P. 40, 41, 46

- ・着目した辺や角、対角線を明確にして、二等辺三角形や正方形の性質を理解する
- ・図形の意味や性質を基に図形を弁別する

2 平行な二つの直線にはさまれた図形の面積を比べることを通して、底辺と高さの位置関係を理解できるような授業を行いましょう。



◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・三角形や平行四辺形の底辺と高さの位置関係について理解することができる。
- ・平行線の性質や図形の意味や性質を基に、面積の公式を考察することができる。

☆ここがポイント！

- ・三角形や平行四辺形の高さの具体的な長さが分からなくても、底辺や高さに着目することで、面積を具体的に求めなくても比較できる場合があることを理解できるようにしよう。

授業アイデア例

国立教育政策研究所
報告書 P. 55～57

- ・高さの具体的な長さが分からない三角形の面積を比べる
- ・高さの具体的な長さが分からない平行四辺形を長方形に直して面積を比べる

3 グラフをかくだけでなく、グラフの分析を中心に据えた授業を行いましょう。

◎児童に、つけたい・のばしたい力

- ・グラフを見て、特徴や傾向を捉え、分析することができる。
- ・グラフの特徴や傾向を捉えるために、グラフの見方や視点を理解することができる。

☆ここがポイント！

- ・ICTを活用して、短時間でデータの整理やグラフを作成することで、データやグラフを分析することを中心に据えた授業を構想しよう。

授業アドバイスシート

小学校算数参照
＜取組例＞

- ・グラフを使って好きな運動について調べよう～目的に応じて、適切なグラフに表す～

授業アドバイスシート

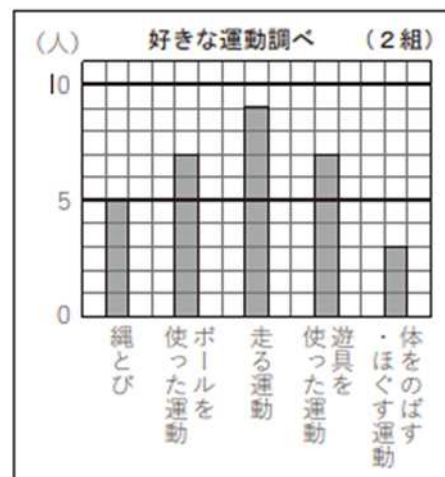
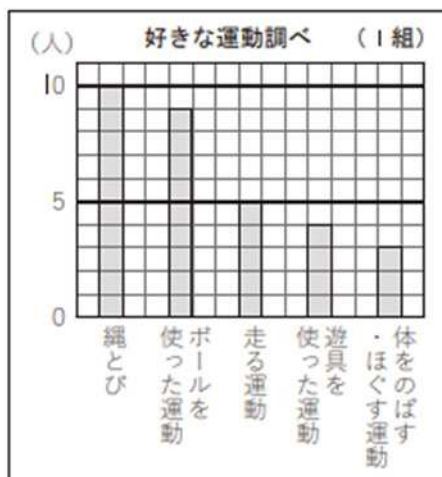
【小学校算数】

グラフを使って好きな運動について調べよう。

1. 各学級のグラフを見て特徴や傾向を変え考察する。



3年1組と3年2組の好きな運動調べの結果を、下の棒グラフに表しました。



1組でいちばん人気のある運動は「縄とび」だね。



2組でいちばん人気のある運動は「走る運動」ですね。



1組と2組を合わせると、どの運動がいちばん人気なのだろう。



1組と2組のグラフから、いろいろなことが分かりそうですね。どんなことが分かるか、タブレット端末の付箋に書きましょう。 **主・対・深** **ICT活用**

A

1組と2組を合わせると、1番目に多いのはボールを使った運動、2番目に多いのは縄とび、3番目に多いのは走る運動です。

B

ボールを使った運動は、1組が9人、2組が7人です。1組と2組を合わせると、1番目に多いです。

C

縄とびは、1組と2組の人数の差がいちばん大きいです。体をのばす・ほぐす運動は、1組も2組も同じ人数です。

2 考えを分類することで、互いの考えを共有する。



タブレット端末の付箋に書いた考えを動かして、同じものや似ているものでまとめて、気付いたことを話しましょう。



AとBの考えは、二つとも1組と2組を合わせた人数について考えているから付箋を近づけよう。

Cの考えは、差に注目しているから付箋を離しておこう。



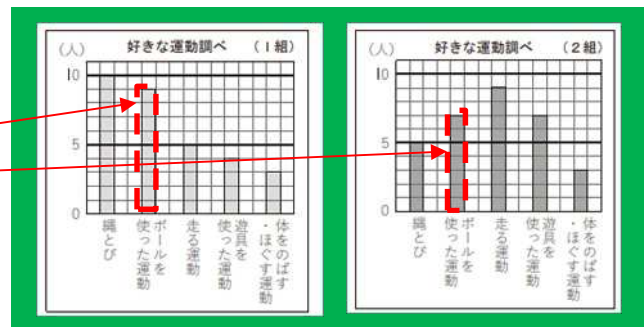
Bの考えを見ると、1番目に多いのはボールを使った運動になる理由がよく分かるね。



グラフのどこを見ると、分かりますか。 **基礎・基本**



1組の「ボールを使った運動」の部分と、2組の「ボールを使った運動」の部分を見て比べました。



1組と2組のそれぞれのグラフを見ても、「ボールを使った運動」が1番目に多いようには見えないね。



1組と2組が別々のグラフだと、みんなが気付いたことが分かりにくいね。



気付いたことが分かりやすく伝わるようなグラフにするには、どうしたらよいだろう。

3 目的に応じて適切なグラフに表し、表したグラフのよさについて話し合う。



1組と2組の合計がよく分かるようにしたいな。

3年生の合計を求めて、グラフに表します。



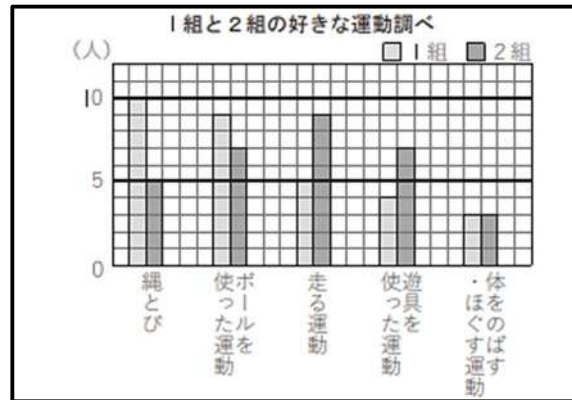
1組と2組の違いがよく分かるようにしたいな。

1組と2組の棒を、それぞれ並べて表します。



1組と2組のそれぞれの人数も合計も分かるようにしたいな。

1組のそれぞれの棒の上に2組の棒を付け足して表します。



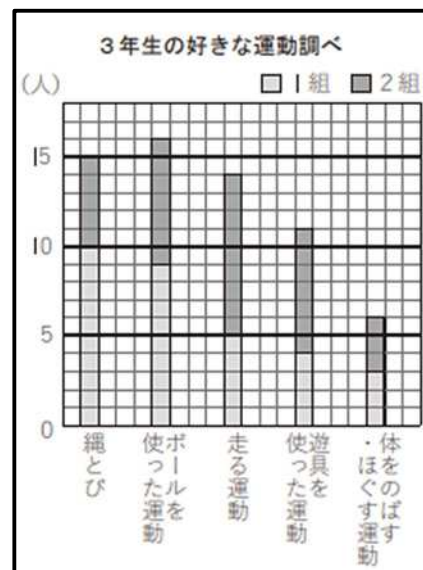
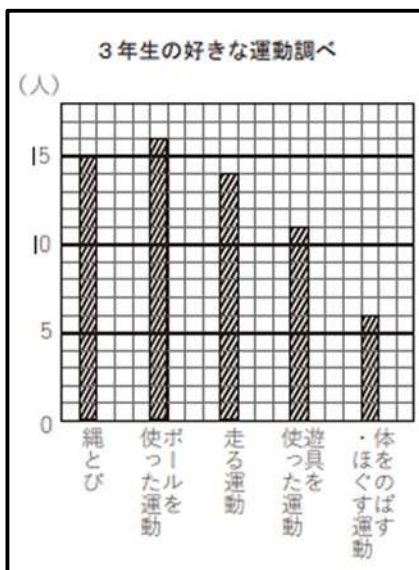
右下のグラフは、3年生全体も1組と2組それぞれの人数もよく分かりますね。



下の二つのグラフは、どちらも「ボールを使った運動」がいちばん人気であることが分かりやすいね。



上のグラフは、1組と2組の違いや同じところがよく分かるね。



<活用のポイント>

- 複数のグラフを比べ、同じところや似ているところを見だし、考察したことを表現できるようにすることが大切である。
- ICTを活用することで、迅速かつ簡潔に児童全員の考えを集め、分類することができる。
- 気付いたことを話し合うことを通して、1組と2組が別々のグラフでは分かりにくいことがあるということに気付くことができるようにし、適切なグラフに表す必要性を生み出すことが大切である。
- 目的に応じて、どのようなグラフを作るのか考えることができるようにすることや、同じデータでも、伝えたいことによって表し方を変えることができることに気付くようにすることが大切である。
- 「データの活用」の領域では、データやグラフの見方について十分時間を取れない場合がある。対策として、アプリ等のICTを活用して、データやグラフを簡単につくるとよい。

<参考>令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた小学校授業アイデア例

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

(3) 中学校国語

1 読書の意義や効用を考え、自分の読書活動について自覚的になるような授業を行きましょう。



◎生徒に、つけたい・のばしたい力

- ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- ・本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。

☆ここがポイント！

- ・読書の意義を考え、観点やテーマに沿った読書計画を立てるなど、主体的な読書活動を支えよう。
- ・聴き合いを通じた協働的な学びを通して、思考を深めよう。

授業アイデア

国立教育政策研究所
報告書 P. 42～46

- ・読書の意義を考え、自分の考えを広めたり深めたりする読書に生かす

2 古典の現代語訳や解説文などを取り上げ、古典の楽しみ方を見いだすことができる授業を行きましょう。

◎生徒に、つけたい・のばしたい力

- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
- ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。

☆ここがポイント！

- ・古文と複数の現代語訳を比較することで、現代語訳の表現の工夫のよさを考えることができるようにしよう。
- ・聴き合いを通じた協働的な学びを通して、思考を深めよう。

授業アドバイスシート

中学校国語参照

<取組例>

- ・現代語訳を読み比べよう

授業アドバイスシート

【中学校国語】

読み比べることで、古典のおもしろさを発見することができる学習活動に取り組もう。

基礎・基本

- 1 前時までに学習した「竹取物語」の冒頭の原文と現代語訳を音読し、読み方や内容の確認を行う。



「いとうつくしうてゐたり」って
どうやって読むんだっけ？

小学校でも学習したから、内容は
だいたい分かるね。



歴史的仮名遣いが難しいね。
現代語訳と読み比べたいな。

原文は読むのが難しいけれど、す
らすら読めるようになりたいな。



音読練習や難しい古語の確認等も、教師が教えるだけでなく、個人やグループで調べたり、教え合ったりする場面を設定しましょう。

- 2 学習の見通しをもつ。



教師

古典の楽しみ方として、現代語訳を読むことや、映画や漫画を手掛かりにすることもあります。今日は、「竹取物語」の冒頭を、現代の作家が現代語で書いた「竹取物語」を読んでみましょう。おもしろく感じたことや工夫されていると思ったことを交流してみましょう。



星新一訳「竹取物語」と教科書の原文・現代語訳とを読み比べることで、構成や表現の工夫を見つけ、書き手の意図について考える場面を設定しましょう。

- 3 各自で、星新一訳「竹取物語」の冒頭部分を読み、おもしろさや工夫されている点について各自でまとめ、グループで共有する。



「笠、竿、箒、籠、筆、箱、筒、箸」というように、「よろづのこと」を詳しく書き換えていて、具体的になっているね。

「その部分を、ていねいに割ってみる」も原文には書かれていないね。翁がしたことを補って書いてあるんだと思うよ。



ICT活用 主・対・深

- 4 3で交流したおもしろさや工夫されている点を、ICT機器のホワイトボード機能等を活用して黄色付箋に書き、古典の原文と対応する部分を青色付箋に書き出して並べる。

らしい まことに、かわい うてあたり	手なれた仕事だ	もっともらしく名 乗ったりする。	○作者の見方などが書かれている	その部分を、てい ねいに割ってみる	笠、竿、箆、籠、 筆、箱、筒、箸	○説明が詳しい	野や山に出かけて	竹取りじいさん	○分かりやすい言葉で書かれている
いとうつくし うてあたり		なむいひける		それを見れば ??	よろづのこと		野山にまじり て	竹取の翁	

5 グループや全体で、4で並べた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。



星新一訳では、「まじりて」を「出かけて」にするなど、教科書の現代語訳よりも、普段使っている言葉に近い言葉を使っているから、分かりやすく感じるね。

教科書の現代語訳の「とてもかわいらしい様子で座っている」でも、「三寸ばかりなる人」の様子は分かるけれど、星新一訳の「まことに、かわいらしい」だと、思わずつぶやいたような感じで、かわいらしさが強調されているね。「いと」は「まことに」と訳すこともできるんだね。



6 図書館でいろいろな現代語訳を読み比べ、それぞれの表現の違いや工夫の意図を考える。



教師

星新一さんは、この本の解説の中で、「ひとつの試みとして、私なりの現代語訳をやってみた」「原文に忠実なようつとめたが、自分なりのくふうも加え、章の終りごとに、ほどほどの補足も書いた。また、改行も増やした」と述べています。星新一さん以外にも現代語訳を書いている作家がたくさんいるので、読み比べてみましょう。読み比べて考えたことを文章にまとめましょう。



学校図書館等で竹取物語の好きな場面を選び、現代語訳や解説書を読み比べてみることで、訳者の表現の工夫や意図を読み取るような活動を計画しましょう。

7 古典や現代語訳を引用しながら、表現の工夫のよさなどについて各自でまとめ、交流する。



川端康成の現代語訳は、教科書の現代語訳に近い表現をしていると感じました。しかし、「そなたは当然わしの子になるべき人じゃ」のように、原文にはない翁のせりふが入り、それに解説を加えている。原文や教科書の現代語訳にはない部分を川端康成がふくらませているおもしろさがあります。

<参考> 国立教育政策研究所授業アイディア例 『読むこと』を通して古典の楽しみ方を理解する～『現代語訳』を活用して古典作品を楽しむ～ P. 67～69
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_k.pdf

(4) 中学校数学

1 具体物の操作・観察やICTを活用することを通して、図形の位置関係の理解を深めるような授業を行いましょう。



◎生徒に、つきたい・のばしたい力

- ・平面における線と線の位置関係を理解することができる。
- ・空間における点と線、点と面、線と線、線と面、面と面の位置関係を理解することができる。

☆ここがポイント！

- ・具体物の操作・観察や、ICTの活用によって、さまざまな角度から図形を確認し、図形の位置関係の理解を深めるようにしよう。

学習指導に当たって

国立教育政策研究所報告書 P. 25、26

- ・観察や操作などの活動を通して理解できるようにする
- ・身の回りにある事象を図形として捉え考察する

2 証明の見通しをもち、協働的に証明の内容を練り上げる授業を構想しよう。

◎生徒に、つきたい・のばしたい力

- ・方針に基づいて課題解決することができる。
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・問題解決の過程や結果を振り返り、評価・改善することができる。

☆ここがポイント！

- ・「仮定と結論、仮定から導かれることがらを整理する」「結論を導くためのことがらを考える」「根拠を明らかにしながら、証明を書き記す」の3ステップを意識させ、見通しをもたせよう。

授業アドバイスシート

中学校数学参照
＜取組例＞

- ・三角形の合同条件を使った進め方について考えよう

授業アドバイスシート

【中学校数学】

証明の見通しをもち、協働的に証明の内容を練り上げる授業を構想しよう。

<学習の流れ>

問題を発見して解決し、それらを振り返りながら、更に考え続けることで発展させる活動を目指す。5つの学習プロセス「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」を意識させながら授業を展開する。

課題の設定

〇〇を証明しよう **基礎・基本** **主・対・深**

- ① 仮定を基に作図をさせて、結論を推測させる。
- ② 推測した結論を証明することを本時の課題とする。
→自ら課題設定をさせてから証明を始めることが望ましいが、慣れるまでは証明の進め方を知ることが大切なので、初めから問題提示をしてもよい。



作図をすることで、問題文の意味を理解しやすくする。

情報の収集

仮定と結論、仮定から導かれることがらを表す **基礎・基本** **ICT活用**

- ① 生徒は仮定や結論、仮定から導かれることがら1つにつき1枚、タブレット端末でカードを作成する。
→タブレットで使用するカードは、仮定は青、結論は赤、その他のことがらは黄色等、色分けをさせる。
※ 事前に使用する図をカードに用意しておく。または、「課題の設定」の作図をタブレットで作図し、その図を複製して利用する。



複数の情報から必要な情報を選択する力を付けたい。慣れるまでは、1つの問題に対して、正しいと分かることがらを全て書き出すようにする。

整理・分析

仮定と結論、仮定から導かれることがらを整理する **主・対・深** **ICT活用**

- ① 書き出したことがらの根拠を聞き合う。
→根拠となる既習事項は、生徒が（授業の振り返りや根拠リスト等）自作し、いつでもタブレット端末で簡単に見られるようにする。



「どうして？」をキーワードに、根拠にできるものとできないものを確認できるようにする。

結論を導くためのことがらを考える **ICT活用**

- ② 整理した情報から、結論を導くためのことがらを考える。
※ 情報が足りなければ、他に何が言えたら結論を導けるか考える。
→①と同様にタブレットで根拠となる既習事項を調べられるようにする。



証明に慣れてきたら、①・②の順でなくてもよい。生徒のやりやすい順に行う。

まとめ・表現

根拠を明らかにしながら、証明を書き記す **主・対・深**

- ① 証明を読む相手に伝わるように証明を書き記す。
- ② 証明を読み合い、証明の書き記し方について練り上げる。



教師が証明の書き記し方の指導をせず、単元を通して生徒が協働的に練り上げていく。

振り返り・改善

本時の学びを振り返る **主・対・深** **ICT活用**

- ① 振り返りを記入し提出する。
 - 振り返りは学級で共有できるようにする。
 - 学びの記録（根拠リスト等）をデータとして蓄積していく。



振り返りを共有することで、多くの気づきに触れることができるようにする。

【授業アイデア例】

三角形の合同条件を使った証明の進め方について考えよう

1. 課題を設定する。

直線 l 、 m について、 $l \parallel m$ として、 l 上の点 A と m 上の点 B を結ぶ線分 AB の中点を O とします。点 O を通る直線 n が l 、 m と交わる点をそれぞれ P 、 Q とするとき、 $AP=BQ$ であることを証明するにはどうすればよいでしょうか。



この問題を読んで、作図をしてください。
 $AP=BQ$ であることを証明するには何がいえればよいか考えましょう。



2つの三角形が合同な三角形に見えるよ。

合同な三角形は、対応する線分の長さが等しいよね。



2つの三角形が合同になる条件が分かれば証明できそうだね。

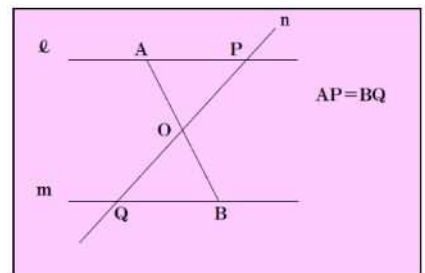
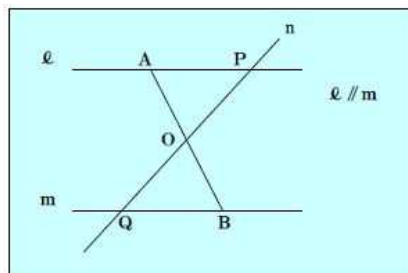
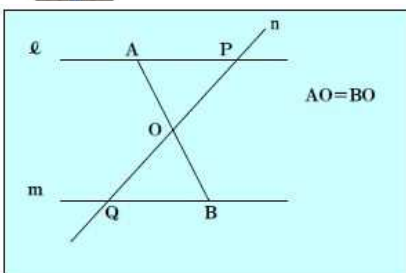


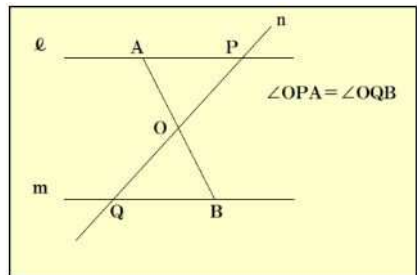
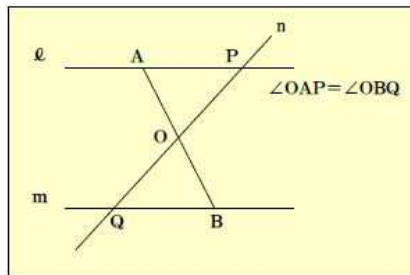
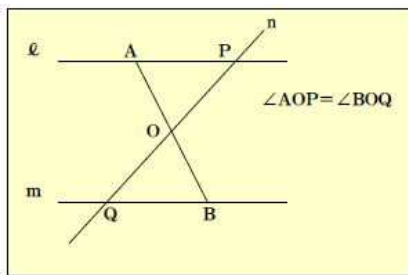
三角形の合同条件を使った証明の進め方について考えましょう。

2. 仮定と結論、仮定から導かれることがらを整理する。



仮定と結論、その他に正しいと分かる情報（ことがら）をカードに書きましょう。





それぞれのカードに書いたことが正しいといえる根拠をグループで聞き合ひましよう。

3 結論を導くためのことがらを考える。



この問題の結論である「 $AP = BQ$ 」が正しいといえる根拠は、何でしょうか。集めた情報から、結論が正しいといえる根拠をグループで考えましよう。



2つの三角形が合同になれば、対応する線分の長さが等しいから $AP = BQ$ がいえるよね。

合同条件は何だろう。



これとこれと、・・・これで、「1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい」になるよ。

4 根拠を明らかにしながら、証明を書き記す。

① ここまでに整理した情報を基に、証明を書き記す。



証明とは「すでに正しいと認められていることがらを根拠として、仮定から結論を（相手に伝わるように）導き出すこと」です。ここまで集めた情報から、証明を書きましよう。

② 書き記した証明を協働的に練り上げる。



書いた証明を、グループで聞き合ひましよう。どのような証明が相手に伝わりやすいか考え、グループで1つ証明を書きましよう。書いた証明は学習支援ソフトに提出して、どのグループの証明が分かりやすいか読んでみましよう。



いろいろな証明の書き方に触れ、単元を通して相手に伝わりやすい証明の書き方を練り上げていく。

5 本時の学びを振り返る。

- ① 振り返りをタブレットで記入し、意見共有をする。
- ② 学びの記録（根拠リスト等）をまとめる。
→根拠リストは振り返りの時間に限らず、本時の学習の中で適宜作成していく。

<参考> 中学校数学2年 教科用図書（啓林館）
 中学校数学2 教科用図書（学校図書）
 情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（日本教育情報化振興会）

(5) 中学校英語

1 説明文を読む目的を明確にし、各自で捉えた各段落の主な内容を表す英文をグループで共有する言語活動を通して「概要を捉えるための読み方」を理解することができるような授業を行いましょう。



授業アイデア例

国立教育政策研究所
報告書 P.46,47

<取組例>

- ・「短い文章の概要を捉える力を育成するための学習過程」

◎生徒に、つけたい・のばしたい力

- ・【読むこと】 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。

☆ここがポイント！

- ・段落ごとに主な内容を表す英文と、その具体的な情報を表す英文を区別しながら読むように指導しよう。その際、教科書に書き込んだり、1人1台端末の書き込み機能を効果的に活用させたりしよう。
- ・段落と段落の関係をワークシートなどに図示させて、段落間の関係を捉えさせよう。

2 内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動の充実を図りましょう。

【知識・技能】の観点においては、全国平均正答率を大きく5.0ポイント上回っている一方、【思考力・判断力・表現力】の観点においては、全国平均正答率を上回ってはいるものの、その上回りは2.9ポイントと前者と比べて低い。



◎生徒に、つけたい・のばしたい力

- ・【書くこと】 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。

☆ここがポイント！

- ・言語活動を行うに当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行おう。
- ・書いた英文を推敲する際には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書くことができているかを指導しよう。

授業アドバイスシート

中学校英語参照

<取組例>

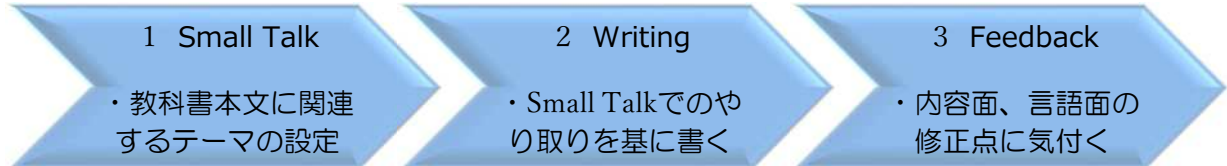
- ・Small Talkの内容を書いて、整理しよう（帯活動）

授業アドバイスシート

【中学校英語】

領域を統合した言語活動を通して資質・能力の育成を図ろう。

【言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する学習の流れ】



1 Small Talk



Q：どのようなテーマでスモールトークに取り組みませよう？

例えば **主・対・深**

- ・教科書本文の内容に関連したテーマの設定
→本文に対する生徒の意欲・関心を引き出すことができます。**主体的**
- ・仲間とのギャップや自分には無かった考え方を引き出すようなテーマの設定
→やり取りを楽しみながら、自分には無かった考えを学ぶことができます。**対話的**
- ・既習事項を想起させつつも、本時で扱う表現の必然性を引き出すようなテーマの設定
→既習の知識を関連付けたり、思いや考えを創造したりすることができます。**深い学び**



主・対・深

- 伝えたい「内容」だけではなく、「どのような英語を使えばいいのかな？」と、生徒が伝えるための「英語表現」を思考・判断することが大切です。そのためには、「目的・場面・状況」を設定した「言語活動」が有効です。
- Small Talk においては、中間指導を挟み、「言いたいけれど言えなかった表現」を共有した上で再度取り組んだり、ペアを変えたりしてブラッシュアップを図ることが大切です。

2 Writing



Q：スモールトークでのやりとりを、どのような形で書く活動につなげたらよいのだろうか？

例えば **基礎・基本**

- ・内容面 → 書く前にウェビングを使うなどして Small Talk でのやりとりを視覚的に整理させることで、書く内容を明確にさせることができます。
- ・構成面 → ステップチャートを示したり、テンプレートを用いて書きやすくしたりすることができます。
- ・表現面 → 意見を述べる表現などジャンルに応じてよく使われる **基礎・基本**の指導の充実を図ることで表現の幅を広げることができます。



○ 1人称や2人称 (I, You) を用いて自分や相手の気持ちや考えを表現することだけでなく3人称 (He, She, It, There, 無生物主語など) を用いて客観的に事実を伝える力を養うことも重要です。

3 Feedback



Q：生徒がいったん書いた成果物をどのように軌道修正したらよいのだろうか？

例えば **主・対・深**

- ・書き表したものをペアやグループで読み合う場の設定
 - 言語面での気づきを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に主体的に推敲させることができます。
- ・目的・場面・状況に沿った内容になっているかという視点の提示
 - 読み手を意識させることで生徒は目的に合った文章を書くための視点をもつことができるようになります。相手にとって必要な情報になっているかという視点に注意して書くことを意識させます。



○ ICT機器を活用することで、生徒が各自で作成した成果物を瞬時に共有・蓄積したり、教師による個々の生徒の学習状況の把握につなげたりすることができます。修正させる上では、教師が改善案をすべて与えるのではなく、生徒の気づきを促すことで思考を働かせることが重要です。 **ICT活用**

